

令和 4 年 第 3 回丹波市住生活基本計画審議会概要

日 時：令和 4 年 7 月 29 日（金） 午後 2 時～午後 4 時

場 所：春日住民センター 1 階 大会議室

議 事：

（1）第 2 回審議会のご意見と対応

- ・事業完了・廃止等の施策の今後の方向性と具体的施策の今後の展開（資料 3）
- ・市民アンケート調査・分析（クロス集計）（資料 4）
- ・丹波市の魅力について（資料 5）

（2）基本理念・基本方針等について（資料 6）

議事録（要約）

（1）第 2 回審議会のご意見と対応

《事業完了・廃止等の施策の今後の方向性と具体的施策の今後の展開》

（資料 3 に基づき、事務局より説明）

《市民アンケート調査・分析（クロス集計）》

（資料 4 に基づき、事務局（受託コンサルタント）より説明

《丹波市の魅力について》

（資料 5 に基づき、事務局（受託コンサルタント）より説明）

委員 完了・廃止される事業で、次の新たな方向性があるのは意味がよくわからない。今後の方向性は、市としての考え方ということか。例えば冒頭のまちづくりに関する事業を見ると、今後の方向性の中に市としての意見があまりは入っていないように思うが、どうなっているか。

事務局 現計画を策定した際、事業が複数の課にまたがるということが多々あったため、整理する必要があった。その中で一度スクラップしてから、作り直していくほうがよい事業もあり、廃止という形になっている。ただ、次の計画の中で組み直していく方法を考えていきたい。

2 点目の考え方だが、事業の評価、今後の方向性については、市の目線で考えている。中心市街地活性化の事業を例に挙げると、これまで市が行ってきた運営補助事業は一旦完了、株式会社まちづくり柏原がエリアマネジメントを実施する形で

新たに展開するものと考えている。

会長 私の理解では、基本的には完了・廃止と記載のある事業は止めるということである。ただ、それで積み残した課題があったり、課題が次のステップに変わったりしたものについては、市として方向性を示しているが、確定しているものはないので、それはこれから検討されることになる。その中に住生活基本計画に関わるものがあったら、計画に入れていくことになると考えている。

少しわかりにくいですが、完了したものもあれば、課題を積み残して、別の施策と組み合わせしていくものもあり、次のステップに進むものもある。その整理を市がこれからしていくと思う。

委員 なぜ廃止に至ったのかわからない事業もあり、残したほうがよいというものも出てくるかもしれない。これは決定事項として受け止めるべきなのか、現時点ではあくまで提案で、今後変更できる余地があるのか教えてほしい。

事務局 実は、廃止と記載している事業については、各担当課において既になくなっていたり、統合されたりしており、新たな施策に向けて走り出している。

例えば、「No.36 子育て世帯の生活環境の整備」については、前回は出産への支援は平成 29 年度末で廃止になっていたが、令和 4 年度からは「ハッピーバース手当事業」という類似事業が実施されており、また妊産婦応援タクシー事業というものもある。市では毎年度施策の検討を進めており、ここに記載している中には、既に廃止になって久しいものも入っていることをご理解いただきたい。

会長 では、廃止・完了の事業については、こういう状況であることを共通理解したということにしたい。

アンケート結果についての意見はどうか。

委員 16 ページの「困っている点についての分析」で、パーセンテージを積み上げているが、あまりこういう集計の仕方はしないのではないか。本来は回答している全数の中で、その不満や困っていることを選んだ人のパーセンテージを出し、その数字が地域ごとに比較されると思う。

会長 このグラフが個別の回答であるのに、なぜ足し算になっているのかという質問だが、このグラフはどう理解したらよいか。

事務局 例えばこのグラフの柏原地域で 9.7%という数字が出ているが、この数字は、17

ページにある表で「家が狭く住みにくい」という項目の回答数が14となっており、これが回答者数145の中で9.7%を占めるということを示している。

会長 個別に地域間比較をしようとするには、この積み上げのグラフはわかりにくい。青垣地域などは不満や困っていると感じている人が多いというようにしか見えない。設問ごとに地域間比較をするのであれば、見せ方を変えてわかりやすくする必要がある。

コンサル 了解した。わかりやすくなるように修正する。

会長 前回、クロス集計でしっかり分析してほしいと依頼があったため、資料が示されている。私が想像していたのは、年齢別で特徴が異なるということ。実際に若い世代や新規転入者は、あまり広い家には住んでおらず、広さなどに不満がある。逆に高齢世帯は広すぎる家に住んでいたり、メンテナンスに困っていたりといったことが読み取れる結果となっている。
地域間の差についても、課題として検討が必要になると思うが、まずはこのアンケート結果で確認したいと思う。

委員 25 ページ以降の自由記述について教えてほしい。これは例えば、住宅改修の希望者が氷上地域で多いという理解でよいのか。
それから、「定住意向」と「定住策」について、住宅改修の希望者が定住意向としては住み続けたいが、移住策はあまり実施してほしくないということで、住宅改修を望む人は、自分は住み続けたいが外からはあまり来てほしくないと思っていると理解すればよいのか。

コンサル 自由回答については、それを書いた方に限った集計なので、必ずしも全体の傾向を表わしているわけではない。前回の会議での、自由回答した方がどのような方か知りたいという要望に応える形で、自由回答を集計した。

委員 では、自由回答で住宅改修について書いた人は氷上地域の人が多かったという理解でよいのか。全体的に氷上地域の人が、自由記述を書いた比率が高かったということか。

事務局 はい。

委員 アンケート調査の結果で、住宅改修の希望と居住年の長さを掛け合わせて説明

していたが、自由回答についても同様のデータがあればよりわかりやすいと思う。それから、資料中に項目がたくさんあるが、そこから何が見えるのか、わかりやすくまとめてもらえると助かる。

委員 Iターンは「生まれた場所が違う人」ということだが、結婚してこの地に来た配偶者はIターンに含まれるのか。そういう人たちをIターン者としてしまうと、データの読み方としては違うのではないか。例えば、この地に住んでいる理由で区別するなど、データの読み取り方に工夫をしてみてはどうか。

会長 アンケート調査の分析は、計画の改定に直接関係してくるので、細かい部分まで確認したいと考えている。気になったのが、丹波市域内での移動もIターンに含まれてしまっている。市外から転入してきたIターンとでは、かなり意味合いが異なる。ここの区分を明確にする必要があるのではないか。

それから、Iターンについては、いくつかの施策が廃止するとされているが、住生活基本計画の見直しとUターン・Iターン者への対応は、深い関係があるはず。次の作業として、施策の柱や方針を定めるときに、確認するものとして、そのアンケート項目でよかったのか整理してほしい。これから基本理念・基本方針を決めていくが、それが実態を反映したものなのかどうか、居住状況や世代格差・地域格差を踏まえた上で、理念・方針を組み立てているのかどうかの確認が必要だと思う。今から基本理念・基本方針の議題に移るので、事務局から確実に説明してもらえるとありがたい。

(2) 基本理念・基本方針等について

(資料6に基づき、事務局より説明)

会長 論点整理をしたい。資料6の1ページで今の丹波市の住生活に関わる特徴を市の概要や聞き取り調査などに基づき、丹波市の住まい・住環境に関する特徴として、1～5まで整理している。その特徴を踏まえて、丹波市の住まい・住環境の政策課題として整理したのが、2ページ目の課題1～5である。さらにこの課題を踏まえて、3ページ目の右側に基本理念と基本方針を立てている。

そして4ページ目が施策体系の図であり、一番上に基本理念、左側に5つの課題、これが3つの基本方針と線で結ばれて示されている。さらに3つの基本方針には、それぞれに施策の方針が示されている。

5ページ目は、現行計画の施策の方針とこれから我々が議論していく改定案の違いが比較できるように記載されている。

今回議論していただきたいのは4ページ目の内容で、ここに示された基本理念、基

本方針と、そこから展開する施策の方針はこれでよいのか検討していただきたい。

委員 資料6の3ページで、丹波市の大きな課題として人口減少・少子化とあるが、今後丹波市の人口を増加させたいのか、現状維持とするのか、減少を容認するのか。少子化についても、どの方向を目指したいのか。出生率のことなどには触れておらず、目指している方向がわかりにくい。

事務局 人口減少の問題は、上位計画と整合を図ることになる。丹波市の人口ビジョンでは2060年という長期の人口像を考えているが、その中に「人口減少に歯止めがかかり、人口構造が安定してくる」という一文がある。つまり、人口減少は避けられないが、ある程度のところで人口構造を安定させていきたいということが、考え方になっている。この住生活基本計画においても、同じスタンスである。人口減少・少子化の問題については、それぞれ関連計画や施策があるので、整合を図りながら、改定を進めていきたい。

会長 当面人口が減少するという前提の中で、どう住生活を確立していくかということである。

委員 5歳以上の高齢者へのタクシー券だが、今年から廃止され、バス券のみになった。バスも通っていないのに、タクシー券が廃止されて困っているとか、バス券があってもバス停までの距離が遠くて困っている、といった声が数多く上がっている。高齢者が住みよいまちづくりが謳われている計画を見ても、素直にそう読めない。市民の生活の場では、まったく異なる状況が生じている。そういうことを知ってほしい。タクシー券は来年からは再開してほしい。

会長 住生活基本計画の中でどこまで対応できるかだが、少なくとも「誰もが安全・安心に暮らせる」としているなら、居住環境と交通は密接なつながりがあるので、ここにどう位置付けるか検討してもらえたらと思う。

委員 資料6の1ページ目、「地域公共交通の充実を図る必要がある」とされている。先ほどのクロス集計でも、地域交通や医療・福祉の充実のところで、重要度は高いが満足度が低いという結果が出ている。特徴のところには交通の記述もあるが、課題では触れられていない。浮かび上がってきたキーワードは、最後まできちんと入れるべきと思う。計画なので、抽象的なものになるのは仕方ないが、少なくとも出てきたキーワードは大事にしていきたい。

委員 私も同じことを考えていて、資料6の2ページ右側の内容は納得したが、それが4ページの基本理念以下では薄れてしまっている。課題の中には定住ということは出てきていないが、基本方針2に「定住」という言葉が頻繁に出てくる。必要なのは定住ではなく、まずは若い人に来てもらうことではないか。例えば子育て期間中は丹波市に移住してもらって、一生いる訳でなく、出て行ってもらっても構わないが、代わりにどんどん若い人に入ってきてもらうというように、歳をとるまで住み続ける定住にこだわる必要はない。アンケート結果に民間の賃貸住宅の記述があったので、賃貸住宅を利用した住み替えモデルのようなものを作ることができるのではないかと思った。そのモデルを試行する中で、賃貸住宅や市営住宅の利用の実態把握も行って状況がわかれば、どの層の人にどういう施策を行えばよいか、具体的にわかってくるのではないか。今回は施策の方針までの案で、具体的な施策が今後、ここに入ってくると思う。交通の施策も入ってくると思うが、できれば施策を立てる上でモデルのようなものがあればよいと考えている。

会長 丹波市の人の動きに注目しているが、やはり中山間地域は人が流動している。流動を前提としないと計画が作れないくらい人が動いている。その流動を前提として、そうした人たちを対象とした住宅政策ができたらいいのではないか。その中で、定住という選択肢を選ぶ人も出てくるのだと思う。そのくらい大きな価値観の転換が起きている。時代の動きをしっかりと見極め、それにふさわしい施策を考えていく必要がある。

事務局 いろいろなご意見、ご提案をいただいた。公共交通の問題や定住の問題については、課題として明確にしていくつもりである。これらについては、都市住宅課だけで対応できる施策ではないので、関係課にも施策への反映を検討してもらうように伝えていきたい。ただ、この計画の中に具体的に盛り込むかどうかは、今後の議題とさせていただきたい。

住生活基本計画は住環境や住まい方まで議論が広がっており、計画に盛り込む内容も多くなっているが、例えば空き家対策、移住・定住促進策などについては実施計画的なものを作るので、ご指摘いただいた事項は、そちらに反映させるべきと考えている。

民間賃貸住宅を含めた住み替えのモデル的なものを作るという提案だが、この基本計画のスキームに組み込めるかどうかはわからない。家の流通の問題が重要になってくるので、民間業者の知恵も借りながら、検討していきたいと思う。

基本方針2の見直しに関する意見もいただいたが、言葉の組み換えも含め、提案があれば承って見直しも含めて、先に進めていきたい。

会長 3つの基本方針について、全く反対ではない。むしろ当然のことだと思う。それを実現するために、丹波市にとってどういう施策が必要か、同じ丹波市でも地域差があるので、そこに十分な詰めが今後求められると思う。

この3つの基本方針について、説明文はもう少し検討してもらおうとしても、この方針自体は大きく否定するものではないと思っているが、いかがだろうか。

では、今日の成果としては、3つの基本方針はこれでよいとする。ただし、これにもう少し丹波市の実情を踏まえて、具体的な施策に繋がるような書き方をしてほしい。

事務局 資料6の4ページ目に示したとおり、基本方針の下に施策の方針を設定しており、この下に具体的な施策を展開していくことを考えている。その中で、基本方針1の部分は、丹波市内の住民の暮らしを守るという意味で掲げている。考え方としては、市の中心部分と周辺部分では様々な格差があり、市の中心部分には様々な都市機能の集積が見られるので、周辺部分にも地域拠点を形成し、中心部分と地域拠点の連結を図っていくというものである。その意味では、公共交通機関の充実なども具体的な施策として入ってくると思われ、また関連計画で公共交通機関の計画もあるので、リンクしながら施策の方針の下、具体的な施策を実施していきたいと考えている。

それから、基本方針2では空き家や定住への対策、新しい生活様式に関する項目を入れている。これは、丹波市の人口維持を目指して設定したもので、アンケート調査では空き家の問題と移住・定住がリンクする回答が目立ったので、これらの事項をまとめて整理している。その意味で定住人口増加と掲げたその下では、子育て世帯が魅力を感じる住環境や空き家の利活用にも取り組むとし、そこから具体的施策に繋げていきたいと思っている。移住・定住については、別に方針があるので、住生活基本計画の中ではメインで扱うわけではなく、あくまでも住みよい環境づくりをメインに考えていく。

今回、基本方針を認めてもらうことができれば、各施策についても、この基本方針の内容に沿って展開するものと考えていきたい。

会長 3つの基本方針は、丹波市に限らず全国の自治体の共通の課題であるとも言える。それを踏まえた上で、丹波市の特徴や課題、基本方針が反映された施策の方針に繋がっていかねばならない。アンケート結果や統計・データに基づいて、その確認を行い、丹波市らしい住生活基本方針を策定してもらいたいと思う。

委員 基本理念だが「～暮らす・集まる・つながるの～」となっているが、「の」は不要ではないか。それと今回、「暮らす・集まる・つながる」と3つキーワードが出

てきて、基本方針も３つあるので、そこに関係性があってもよいのではないかと思った。「つながる住まいの推進」とか「集まる住まい」とか、言葉の使い方に工夫をしてみてもどうかと思った。

事務局 「の」が入っているのは間違い。３つの基本方針と基本理念の言葉の対応のほうは、少し検討してみる。

会長 他に意見がないようなら、これまでの話を整理して確認してみる。基本理念は語句の誤りを修正する。基本方針はこれでよいが、説明文はアンケート結果やその他を踏まえて、丹波市の課題が明確になるように、検討してもらいたい。それから、丹波市内でも地域によって課題が異なるということもあるので、ここでまとめてもらいたい。このような方向で次のステップに進んでもらえればと思う。以上で、議事２を終了する。

○その他

事務局 次回の審議会は、９月頃の開催を予定しているが、それまで何もやり取りしないのではなく、何か資料が完成したり、委員の方々のご意見を聞く必要があるものが生じたら、やり取りさせてもらうので、よろしくお願いいたします。

委員 最初から気になってなっていたことがある。資料３に「地元産材を活用した家づくり」という項目があるが、この事業が、国の事業などがあるという理由で廃止されている。しかし丹波市の最大の特徴は木がたくさんあること。だから、地元産材の活用を図る住宅の事業が掲げられてきたのだと思う。しかし、国の制度があるから丹波市の事業は消えてしまうように見える。
そこで提案なのは、公営住宅も木造で取り組んだら、より丹波らしさが出るのではないか。北海道では耐火塗料を施した木造ビルを建てるといったことに取り組んでいる。丹波市も地元産材を使っていけば、魅力的なまちになるのではないか。

事務局 資料３の事業についてのご指摘だが、同じ資料の８ページの No.22、23、24 で「地元産材を活用した地産地消の家づくり」の事業を挙げている。廃止になるのは No.24 の事業だが、地元産材の活用という意味では No.22、23 を引き続き取り組んでいく。またご指摘の公共施設についても、市産材をできるだけ活用する方向で事業を進めていけたらと思う。

会長 廃止される事業のことやその事業の今後の方向性は、十分に伝わっていないだろう

うから、しっかりと説明を行ってほしい。
これで、本日の審議会を終了する。

以上